



くまもとアートポリス  
kumamoto artpolis

熊本県



kap

2007年度 第13回  
くまもとアートポリス推進賞

KUMAMOTO ARTPOLIS

# 第13回くまもとアートポリス推進賞の選考を終えて

選考委員長 村橋久昭

熊本県では、豊かな自然や歴史・風土を生かした優れた建築物関係施設を、造り育むことを目的として「くまもとアートポリス推進賞」という顕彰事業が進められています。2007年度も、第13回目の事業が実施されました。

今年度の「推進賞」事業には、応募作品総数が44点を数え、優れた作品が多く、選考委員の先生方にも好評でございました。

応募作品の主な用途は、専用住宅 18点、学校施設関係 7点、事務所等S造施設 5点、交流施設 3点、庁舎 2点、貸し店舗 2点、その他美術館、公衆浴場、慰霊碑、鳥居、公園など 7点であります。

1次選考の書類審査は、選考委員各自の持点10点をA、B、Cの3段階に、重み付けした配分で事前チェック評価とし、結果として集計された配分表は分散分布の評価となり、下位の方の作品から討議し、各委員の主張も加味し、現地審査には10作品が選出されました。

現地審査は、設計者へ立地条件への対応方法などを含め、素材、居住空間、外部空間の取り扱い方、見せ方、あるいは現し方など厳しい質疑が交錯していました。

最終的に5作品の「推進賞」と2作品の「推進賞選賞」が選出されました。

推進賞に選ばれた5作品は、専用住宅 2点、他に大学施設、交流施設、S造の研究所が選ばれ、推進賞選賞には、エステティックサロンと貸し店舗が選ばれました。

作品のご紹介については、選考委員の先生方が、リーフレットに詳細に述べておいでですから、ご覧になって下さい。

選考委員として参加して感じたことを、一言申し上げますと、

■専用住宅の2点は、城下町の住宅とH-c o u r t ありますが、全く対照的な作品で城下町は鋭いエッジを見せた住まいで、Hコートは内部空間と外部空間をキュービカルに見せた住まいです。

■熊本学園大学14号館は、国際会議場を持つ記念会館で、学園通りに見せる海老原喜之助のモザイク壁画「蝶」は辺りに安らぎを与えています。

■多良木町交流館石倉は古い穀物倉庫を現行基準法の中で再生利用した施設で「地域の再生力を培う」交流の場所に適していると言えます。

■グリーン、ツイード アンド カンパニー アジア エンジニアリング センター(研究所・工場)は、主要構造はS造であるが溶接箇所も少なく、鉄骨部材はジョイストにしてボルト留めとした乾式構法であり、天井裏の部材まで現しにしています。鉄骨構造の作品が「推進賞」に選出されたのは珍しく、事業の新しい進展と言えます。

■「推進賞選賞」の2作品は、推進賞には選出できないが優れていると評価され、次の機会が期待されています。

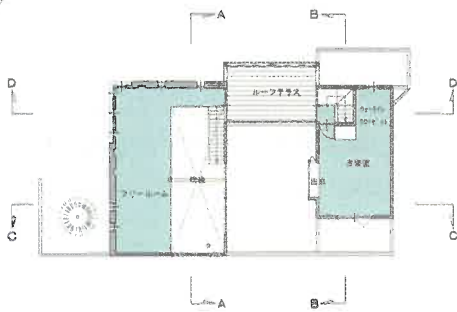
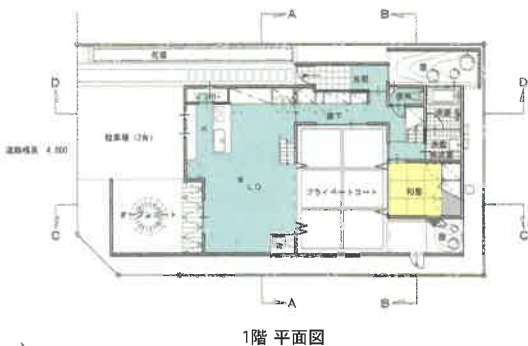
このように「くまもとアートポリス推進賞」の顕彰事業は、優れた作品を核とした、豊かな「土着の地域造り」が進展すると共に、地域に「新しい再生力が生まれる」ことを期待しています。





# H-court

所在地 ■ 八代市松崎町  
 竣工年月 ■ 平成19年6月  
 用途 ■ 専用住宅  
 構造 ■ 木造  
 敷地面積 ■ 223.64㎡  
 建築面積 ■ 89.44㎡  
 延床面積 ■ 131.03㎡  
 事業主 ■ 林田聖二  
 設計者 ■ 岩瀬隆広建築設計  
 施工者 ■ 株式会社米本工務店



LDとプライベートコート



和室からプライベートコートを見る

現地を訪れたとき、オヤツと思った。書類審査の印象と違う。2階の外壁を外側に傾けた黒い杉板縦羽目の外観、白いスリットのニッチ状の開口部など、既視感の少ない建物ではあるのだが、地方都市の典型的な住宅街にあって違和感がない。何だか面白そうな気配があった。L字型の板塀に囲まれた半開きのオープンコートから連続する空間を見た時、これはいける、と確信した。オープンコート+縁側+L.D.+プライベートコート+和室と連続する、大小高低の外部と半外部と内部が作り出す、空間のリズムが心地良い。

書類審査用に提出されたプレゼンテーションには、断片化された図面と写真が多数使用されていたので、記号化された神経質な住宅ではないか、と誤読していた。これは他の多くの応募作品にも言えて、工夫した所や見せ場を全て見せたい、という気持ちは充分理解できるが、本当に重要な写真を数少なくシンプルに出す方が、ずっと設計の意図は伝わり易い。その意味で、現場に足を運ぶ重要性を改めて感じた。実物は全くおらかな物だったのだ。

黒の縦羽目の塀の内側は、白く染色された質感のある杉の板と角材を交互に横張りにして、凹凸感のある陰影を作っている。所々その角材を抜けば、スリット状の風穴にもなる。ちょっとした工夫が空間を豊かにしていて秀逸である。

内部空間は回遊性があり、吹き抜けのあるL.D.はシンプルだけれど、たっぷりした太めの杉の柱と梁が空間を引き締めている。若いご夫婦の等身大の住まいの、清潔なたたずまいに好感を持てるが、この住宅だったら子供達が走り廻る光景も楽しそうだ。

(武田 光史)







# 熊本学園大学14号館 (60周年記念会館)

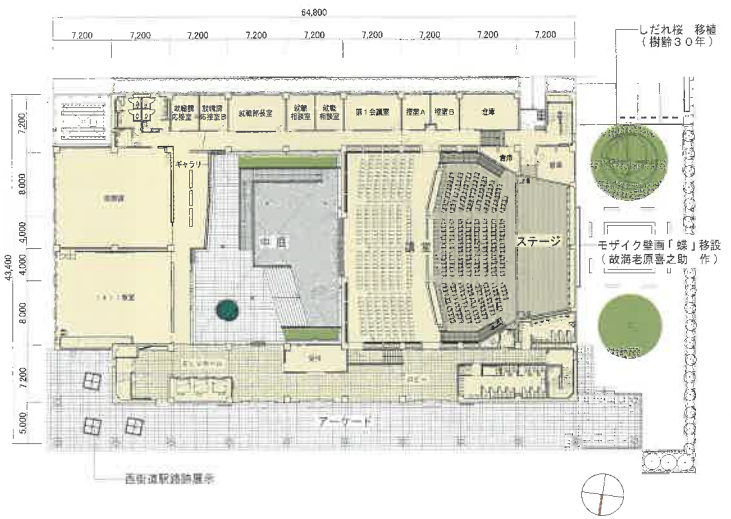
- 所在地 ■ 熊本市大江
- 竣工年月 ■ 平成19年3月
- 用途 ■ 大学・大学院(国際会議場、情報教育関連施設等を含む複合施設)
- 構造 ■ 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
- 敷地面積 ■ 97,157.75㎡
- 建築面積 ■ 26,649.46㎡
- 延床面積 ■ 91,356.21㎡
- 事業主 ■ 学校法人熊本学園
- 設計者 ■ 野中建築事務所
- 施工者 ■ 熊谷・小竹・酒井建設工事共同企業体



ステージ



アーケード



「熊本の文化を伝える学舎」

熊本市大江の熊本学園大学を訪ねると、創立60周年を記念して建てられた14号館の外壁で、故海老原喜之助氏のモザイク壁画「蝶」が生き生きとした表情を見せていた。

海老原氏は戦後の熊本美術界をリードした洋画家。1960年、熊本市新市街の映画館の壁に「蝶」を残したが、通りのアーケード化で壁画は屋根の上に隠されてしまった上、2005年には映画館の閉館が決まり、建物ごと壊される瀬戸際に追い込まれていた。

それを救ったのが、ちょうど建設計画が進んでいた14号館。美術関係者が壁画保存に奔走する中、設計者が外壁への設置を提案し、ぎりぎりのタイミングで移転が実現した。貴重な作品を残した関係者の熱意は高く評価されるべきだろう。

さて、14号館は鉄筋コンクリート6階建ての教室棟がコの字型に中庭を取り囲み、中庭の階段を数段上ると、一階のホール入り口に通じる構造になっている。中庭から教室棟を見上げた時、学生たちが窓から手をふってくれているような楽しい錯覚を覚えたのは、上から眺めた中庭がちょうどステージのようにも見えただろうか。

552席のホールは同時通訳設備も備え、国際会議にも対応。教室棟には最新設備が整ったパソコン室や講義室などが並ぶ。手すりなどにも点字がほどこされ、UD対応も積極的。イチョウ並木に面した1階外側は高い屋根のアーケードになっていて、一角には太宰府につながる古代の官道「西海道」の遺構が保存され、のぞけるようになっている。

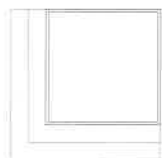
思わず歴史を考えさせるような古代の道の遺構の上で、戦後の息吹を伝える白い2匹の蝶の壁画を抱えて建つ最新施設。熊本の未来を託す若者の学舎として、ふさわしい建物が出来たと見えそうだ。

(松尾 正一)



## 城下町の住宅

所在地 ■ 熊本市坪井  
 竣工年月 ■ 平成19年1月  
 用途 ■ 専用住宅  
 構造 ■ 鉄筋コンクリート造  
 敷地面積 ■ 188.45㎡  
 建築面積 ■ 58.19㎡  
 延床面積 ■ 134.24㎡  
 事業主 ■ 下田誠也  
 設計者 ■ 塩塚隆生アトリエ  
 施工者 ■ 株式会社建吉組



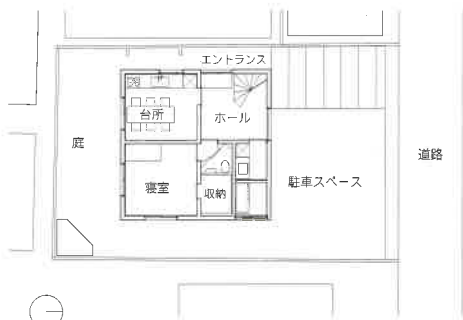
屋根



3階



2階



配置図1階



東南外観夕景



1F玄関ホール

建て込んだ密集地はいささか雑然としていて、道幅も一定せず、揺らいでいるように見えた。周囲の家々も、新興住宅地のように必ずしもひと色ではなく、新旧こもごも、鉄筋コンクリートあり木造あり、瓦屋根ありシングル葺きありといった有様であった。そのなかにこの家はちょこんと座っている。

まわりから隔絶するのでもなく、かといってまわりに溶け込むのでもない、このざわざわした中にちょこんと座っている感覚に、最初から僕は魅せられた。ところが図面や写真だけでは、絶対にうまくいっているような気もするし、ただの味気ないものかも知れない。どうしても行って直に見ずにはいられなかった。

果たして現場に到着してみると、不安は一瞬にして氷解した。こいつは出来る。とくに北側正面の、右が縦にそろい、左が段々にセットバックする非対称の立面が秀逸。

まったく同じ大きさの開口が1、2階では縦揃い、2、3階では位置がずれるがまったく同じ規格のサッシュがはいる。少ない言葉数で、なんとも親しみのわく外観が出来上がっていた。夕暮れに明かりの入ったこの家の表情は、穏やかだが確実な秩序を街並みに与える緒となっている。

室内の構成や間仕切りのデザインなどにも、建て主と建築家の息の合ったこのストイックさとウィットネスが徹底され、応募作品の中で建築的にはもっとも優れた作品だと思う。

(古谷 誠章)





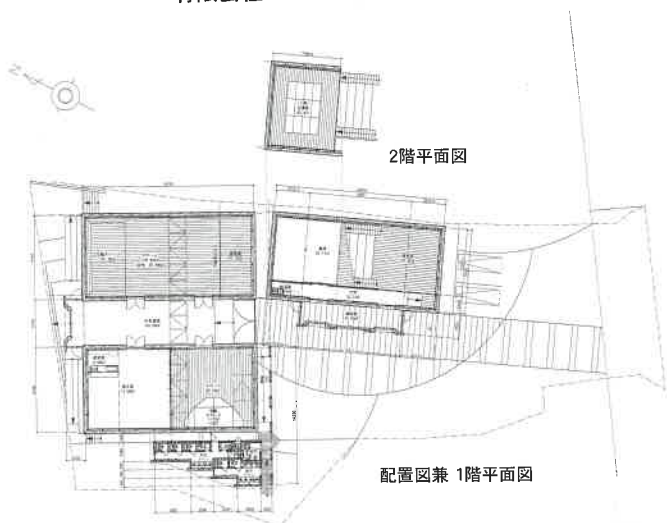


くまもとアートポリス  
推進賞



## 多良木町交流館石倉

所在地	■ 球磨郡多良木町多良木
竣工年月	■ 平成18年3月
用途	■ 地域交流施設
構造	■ 木造
敷地面積	■ 1,582.6㎡
建築面積	■ 701.6㎡
延床面積	■ 771.6㎡
事業主	■ 多良木町
設計者	■ かちゃあデザイン一級建築士事務所
施工者	■ 肥後環境株式会社、有限会社鶴田電気設備、成松建設株式会社、株式会社尾前電気設備、河内産業有限会社



中央通路

昭和10年、多良木駅前に穀物倉庫として作られた石倉は、戦後の物流の変化に伴いその役割を終え、石壁の表面の苔も重く、時代の推移を感じさせながらその姿を残していた。今回、その使われなくなった石倉が、地域住民の交流の場と中心市街地の活性化を図る拠点として、息を吹き返した。石壁は洗われ、凝灰岩独特の温かな石肌が復活し、ステンドグラスや色ガラスがはめ込まれた出入り口が、通りがかりの人を思わず覗き込ませるアンティークな建物として再生されたのである。

石倉はA・B・Cの三棟からなり、西・南・北の入り口は正面・裏を感じさせない作りで、三つの入り口はそれぞれに地域住民が協力した作品が使われている。建物の南入り口は頭上にブルーを基調とした高校生ボランティア作品のステンドグラスが飾られ、西側入り口は小学生の作品によるサンドブラスト加工で彩られ、暗くなりがちな室内に太陽の光をオレンジや黄の色に変えて明るさを加えている。そして、ドアの取っ手には町内在住の鉄工芸家の作品が使われている。

屋内に入ると、A棟とB棟を繋ぐ広い中央通路の床面には、子供たちの手による「思い出ガラスチップ」が埋め込まれ、天井からは地元竹細工家による竹製のシャンデリアが2か所に下がり、施設内の間接照明には養護学校生徒の手作り傘が用いられ、石の冷たさ感が柔らかく温かいものを感じさせられた。また、室内の壁は倉庫であった時代に、米俵などが石壁を押しつけて傷付けることを防いだり、湿気を予防するために、一間ごとに立てられた柱とその間をつなぐ丸木の柵がそのまま活用され、独特のインテリアになっている。また、可動式のステージも作られコンサートや講演会、パーティなど、多様な活用が考えられている。

建物を通して気持ちをひとつにしたい…その願いが、冷たく重いイメージの「穀物倉庫・石倉」を、温かい「交流館・石倉」として生まれ変わらせていた。

(星子 邦子)



南外観



くまもとアートポリス  
推進賞



# グリーン、ツイード アンドカンパニー アジアエンジニアリング センター

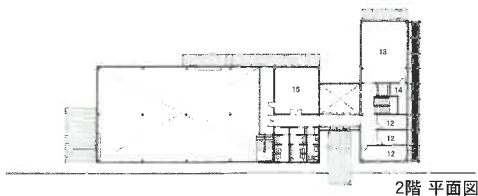
- 所在地 ■ 合志市福原
- 竣工年月 ■ 平成17年9月
- 用途 ■ 研究所(事務所)
- 構造 ■ 鉄骨造
- 敷地面積 ■ 6,104.72㎡
- 建築面積 ■ 901.68㎡
- 延床面積 ■ 1,162.76㎡
- 事業主 ■ グリーン、ツイード アンド カンパニー  
ジャパン株式会社
- 設計者 ■ 萩野アトリエ
- 施工者 ■ 株式会社建吉組

アメリカの半導体関連部品の研究所である。近い将来に製造部門(工場)もはいることが予想されている。

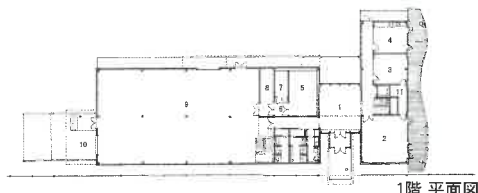
テクノパークの多くの四角い巨大な建築に対して、いわゆる「のこぎり屋根」による、小さな単位の連続による表現を主張している。「のこぎり屋根」はものを製造する工場として相応しい空間であると同時に、多くの美術館が採用しているように、研究所やオフィスに安定した北側の自然光を提供している。また将来の増築に対しても対応しやすく、景観的な調和も崩さない。上も安定している。低い木造の扉(スクリーン)の素材とスケールによって殺伐とした周辺の景観を和らげる効果を上げている。

ここでは鉄骨をはじめ、ほとんどのエレメントは剥き出しである。設計者が述べているように、エレメントをうまく分離(アーティキュレート)してデザインされているので、構成そのものがストレートに表現され、気持ちの良い空間をつくり出している。それを裏付けているのは、用意周到に考えられた構成と、丁寧に収められたディテールである。多くの図面に込められた情熱と、それを受け止めて製作した工事者たちの技術と誠意がそれらを成し遂げたといえる。ともすれば荒々しく、あるいは殺風景になってしまうこの種の建築を、実に明快で爽やかなものに仕立てることができている。

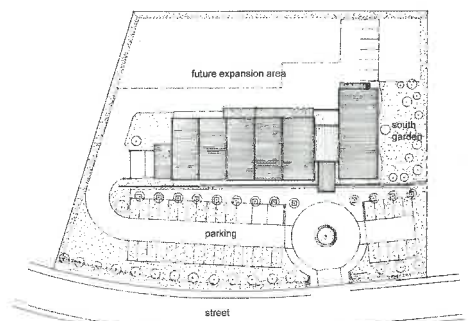
(元倉 眞琴)



2階 平面図



1階 平面図



配置図



1階南側デッキ



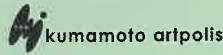
2階オフィスまわり





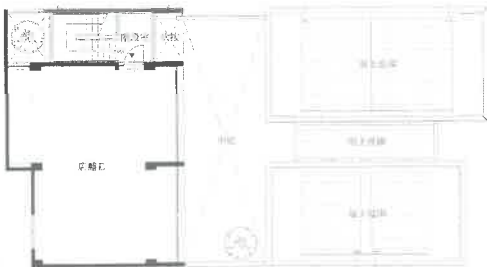


くまもとアートポリス  
推進賞選賞

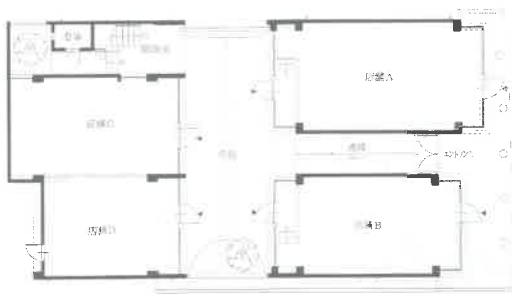


# AI mall

- 所在地 ■ 熊本市草葉町
- 竣工年月 ■ 平成17年9月
- 用途 ■ 貸店舗
- 構造 ■ 鉄筋コンクリート造
- 敷地面積 ■ 291.60㎡
- 建築面積 ■ 177.04㎡
- 延床面積 ■ 251.38㎡
- 事業主 ■ 萩原秀道
- 設計者 ■ アクティブデザイン
- 施工者 ■ 酒井建設工業株式会社



2階 平面図



1階 平面図



Roses内部

熊本市の上通りのアーケードからひと筋奥まった小道沿いにある商業ビル。普通ならどう考えても容積を目一杯消化して縦に積み上がる計画だ。路面に店舗を入れて、上層はオフィスか住戸といった構成だろうか。ところがここでは通りに面する側はなんと平屋、奥側の建家でも2階建てでしかない。お陰で2階からも平屋の屋上の花畑を見下ろし、今のところ周囲の街並みを展望することも出来る。

たしかに現在のこの付近一帯の貸室需要は、思うほどには高くなく空き室も目立っているというから、建設の投資を抑えて、その代わりに良好な環境を得るという方針も納得できる。だがそれでも少し長い射程で見れば、ここまで容積を抑えるのはあまりにも消極的に見えるかも知れない。しかし僕は、建物の価値を床面積だけで測る不動産的資産価値に対し、街やそこを歩き交う人々にどのような空間を提供するかという、環境的資産価値を重んじたこの事業主の姿勢を大いに評価したい。将来まわりが建て込めば、一層その価値が出てくる。

敷地一帯の小道は、人を誘うように不思議に曲折があって道幅も揺らいでいる。この小路の感覚が敷地内に引き込まれ、居心地のよいパティオが生まれている。人がさらにそこをすり抜けて2階に上がる立体路地がつくられた。もうすこしその空間が演出されれば、スイスの小さな山岳集落の道空間のようになり得るだろう。

(古谷 誠章)



屋上庭園





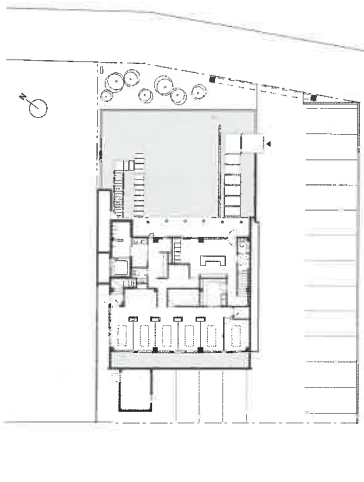


くまもとアートポリス  
推進賞選賞

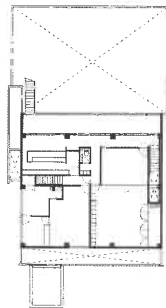
ag kumamoto artpolis

## コンパスポイント本社ビル

所在地 ■ 熊本市田井島  
竣工年月 ■ 平成19年6月  
用途 ■ エステティックサロン  
構造 ■ 鉄骨造  
敷地面積 ■ 842.89㎡  
建築面積 ■ 202.36㎡  
延床面積 ■ 319.50㎡  
事業主 ■ 有限会社コンパスポイント  
設計者 ■ 株式会社agアーキテツ  
施工者 ■ 株式会社建吉組



1階 平面図



2階 平面図



エントランスアプローチ



1Fテラス

風通しのいい木製のフェンスを抜けて入ると、そこには一面の水が湛えられていた。歩を進めながら、陽光を反射する水面を眺めていると、流れ落ちる水音が心地いい。エステティックサロンと言う案内であったが、館内はエステ用個室にとどまらず、エクササイズや音楽を楽しむための施設空間、お洒落なバーカウンターまで備えている。これまでの経験を活かして、訪れた客に快適な非日常時間を提供するための仕掛けを、経営者の思い通りに組み込んでいった結果であろう。

目の前に大規模病院などがあるために、圧迫感のない工夫を凝らしたプライバシー保護にも細心の配慮がなされているのが判る。来客層は幅広く、多大な支持を得ているのは、その空間づくりの魅力にあるのだろう。ほとんどの部屋から緑や水の流れを楽しむことが出来、そしてなにより、その空間に慣れてきた頃に、どの部屋に居ても心地いい水音が精神的な寛ろぎ感を作り上げているのに気付く仕掛けになっている。ただ、その空間を移動するための通路に空間安定感の不足というか幾分の窮屈を感じた。

応募書類に記されていた、『穏やかに流れる時間、心と体が開放される場所』という目的を具現化しようとした試みは、経営者の自信に満ちた言葉からも十分に感じ取れた。陽が落ちた後の、照明に浮かび上がった空間演出効果も見てみたいと思った。

(轟 多朗)

# 受賞作品一覧

## 第12回 2006年度



66 阿蘇の舎  
[阿蘇市]



67 nina Dental Clinic  
[八代市]



68 西の久保公園  
[天草市]



69 "B" studio  
[熊本市]



70 永田歯科  
[熊本市]

## 第11回 2005年度



60 k-house in 近見  
[熊本市]



61 高瀬蔵  
[玉名市]



62 3Towers  
[合志市]



63 美里町立中央小学校体育館  
[下益城郡美里町]



64 玉名温泉 つかさの湯  
[玉名市]



65 堀田眼科医院  
[菊池郡菊陽町]

## 第10回 2004年度



55 九州新幹線新水俣市  
[水俣市]



56 SWH  
[阿蘇郡南阿蘇村]



57 田迎の家  
[熊本市]



58 東海大学附属第二高等学校  
[熊本市]



59 ひだまりのまち B<sup>2</sup>  
[八代郡水川町]

## 第9回 2003年度



51 熊本保健科学大学  
[熊本市]



52 I-HOUSE  
[熊本市]



53 熊本市現代美術館  
[熊本市]



54 UEDA, Residence  
[熊本市]

## 第8回 2002年度



46 久野邸  
[熊本市]



47 立田山野外保育センター  
[雑草の森]  
[熊本市]



48 八代の町屋  
[熊本市]



49 いのうえデンタルクリニック  
[熊本市]



50 大野温泉センター  
[葦北郡芦北町]

## 第7回 2001年度



39 荏原九州  
[玉名郡南関町]



40 K.Residence  
[熊本市]



41 つなぎ美術館  
[葦北郡津奈木町]



42 穂田の舎  
[熊本市]



43 ガレリアのある舎  
[玉名市]



44 chase  
[天草市]



45 キューネット社員寮(希翔館)  
[熊本市]



# くまもとアートポリス推進賞(第1回～第12回)

## 第6回 2000年度



■八代ハーモニーホール  
[八代市]



■城南の舎  
[下益城郡城南町]



■美里町社会福祉保健センター  
「湯の香苑」  
[下益城郡美里町]



■ネクステージビル  
[熊本市]



■熊本YMCA  
阿蘇キャンパメインホール  
[阿蘇市]



■セカンドサイト  
[熊本市]



■露の斎場  
[球磨郡多良木町]

## 第5回 1999年度



■水上村立湯山小学校  
[球磨郡水上村]



■美里町総合交流ターミナル  
[石段の里 佐保の湯]  
[下益城郡美里町]



■植柳新町公民館  
[地域学習センター]  
[八代市]



■シルワ・エッセ  
[熊本市]



■50M+木の森美術館  
[阿蘇郡小国町]



■宮崎耳鼻科  
[熊本市]



■矢野邸  
[熊本市]

## 第4回 1998年度



■老人保健施設かがみ苑  
[八代市鏡町]



■熊本県信用保証協会  
八代支所  
[八代市]



■HOUSE:H-M  
[球磨郡あさぎり町]



■水俣市保健センター  
水俣市総合もやい直しセンター  
[水俣市]



■古閑邸  
[熊本市]



■聖母の丘  
[熊本市]



■下宮はまどん公園  
[八代郡水川町]

## 第3回 1997年度



■久連子古代の里  
[八代市泉町]



■養護老人ホーム  
八代市立保寿寮  
[八代市]



■水俣市営洗切団地  
[水俣市]



■丸尾焼工房  
[天草市]



■人吉の舎II/平井邸  
[人吉市]



■浮島周辺水辺公園  
[上益城郡嘉島町]

## 第2回 1996年度



■慈愛園ノーマンホール  
[熊本市]



■阿蘇白水温泉「瑠璃」  
[阿蘇郡南阿蘇村]



■ふるさとセンターY・BOX  
[玉名市横島町]



■野田市兵衛商店  
流通団地営業所  
[熊本市]



■清和物産館  
(四季のふるさと)  
[上益城郡山都町]



■荒瀬ダムポートハウス  
[八代市坂本町]



■出田眼科病院  
[熊本市]



■尚玄山荘  
[玉名市]

## 第1回 1995年度



■小国町立西里小学校  
[阿蘇郡小国町]



■東陽石匠館  
[八代市東陽町]



■八代広域行政事務組合  
消防本部庁舎  
[八代市]



■野田市兵衛商店  
流通団地営業所  
[熊本市]



■清和物産館  
(四季のふるさと)  
[上益城郡山都町]



■荒瀬ダムポートハウス  
[八代市坂本町]



■出田眼科病院  
[熊本市]



■尚玄山荘  
[玉名市]



# 第13回くまもとアートポリス推進賞

## 募集要項

### ■ 趣 旨

熊本県は、環境デザインに対する関心を高め、都市環境並びに建築文化等の向上を図るとともに、世界への文化情報発信地「熊本」を目指し、後世に残り得る文化的資産を創造するため、「くまもとアートポリス」を推進しています。

この事業の目的を達成するため、コミッショナーが国の内外から推薦した設計者を参加事業主に紹介するプロジェクト事業や各種イベント、広報事業等を行い、さらに幅広く県民の皆様の御理解を深めていただくため、平成7年から「くまもとアートポリス推進賞」の表彰を行っています。

この賞は、質の高い優れた建造物等を顕彰することにより、県民の環境デザインに対する意識の高揚と都市環境並びに建築文化等の向上を目指し、併せて豊かな地域づくりを図ることを目的としています。

### ■ 表彰対象

概ね5年以内に竣工(改造、改修、修復を含む)した熊本県内の建築物、橋、公園、記念碑等の建造物及びそれらで構成された一群の施設等(くまもとアートポリス参加プロジェクト及び県の施設を除く)とします。

### ■ 選考基準

本賞の選考は、建造物等の企画、設計、施工及び施設の利用について、次に示す評価のポイントをもとに総合的に評価します。

評価のポイント

- ① デザインが優れているもの
- ② 新しい技術的提案や工法の改善が行われているもの
- ③ 良好な施工が行われているもの
- ④ ひとや環境に優れた配慮がなされているもの
- ⑤ 施設の活用に創意工夫がみられるもの
- ⑥ 維持・管理が良好なもの
- ⑦ 地域づくりに寄与しているもの
- ⑧ 長いスパンのライフサイクルに配慮されているもの

### ■ 賞

賞は「くまもとアートポリス推進賞」、「くまもとアートポリス推進賞選賞」とします。  
事業主(必要に応じて管理者を含む)、設計者及び施工者に知事が表彰状を贈ります。

### ■ 応募資格

自薦、他薦を問わず、どなたでも応募できます。

## 選考委員 (50音順)

武田光史(日本工業大学教授、㈱武田光史建築デザイン事務所代表)

轟 多朗(デザイントドロキ、熊本県文化協会理事)

古谷誠章(早稲田大学教授、スタジオナスカ代表)

星子邦子(オフィスホシコ主宰)

松尾正一(熊本日日新聞社地方部長兼論説委員)

村橋久昭(社団法人熊本県建築士会会長)

元倉眞琴(東北芸術工科大学教授、㈱スタジオ建築計画代表)

## 選考経過

募 集	平成19年7月20日(金)～9月14日(金)	応募件数44件
書類選考	平成19年9月30日(日)	
現地審査	平成19年11月1日(木)～2日(金)	現地審査件数10件
最終選考	平成19年11月2日(金)	推進賞5件、推進賞選賞2件
表 彰 式	平成20年2月1日(金)	

## 熊本県

### 土木部建築課

〒862-8570

熊本市水前寺6丁目18番1号

TEL.096(333)2537

FAX.096(384)9820

<http://www.pref.kumamoto.jp/traffic/artpolis/index.html>



### くまもとアートポリスのマーク

シンボルマークは3つの楕円と1つの小さな丸で構成されています。

3つの楕円は、左から順に「地域/世界」「くまもとアートポリス/熊本」「ひと/地域」が、互いにつながっていることをあらわします。楕円の傾きは地球の地軸の傾き(太陽を中心とする公転軌道に対する地球の軸/南北軸の傾き)と同じ23.5度です。

シンボルマークは、くまもとアートポリスの目標「地球と対話、地球とネットワーク」に対応しています。くまもとアートポリスは、地域に生活する人々と対話しながら様々な建造物や環境を創造します。同時にこのような活動は、常に地球規模のネットワークとも繋がり、世界的な環境への配慮や地域文化的な広がりをもっていることを示しています。

# 第13回 くまもとアートポリス推進賞 作品募集

## 趣 旨

熊本県は、環境デザインに対する関心を高め、都市環境並びに建築文化等の向上を図るとともに、世界への文化情報発信地「熊本」を目指し、後世に残り得る文化的資産を創造するため、「くまもとアートポリス」を推進しています。

この事業の目的を達成するため、コミッショナーが国の内外から推薦した設計者を参加事業主に紹介するプロジェクト事業や各種のイベント、広報事業等を行い、さらに幅広く県民の皆様の御理解を深めていただくため、平成7年から「くまもとアートポリス推進賞」の表彰を行っています。

この賞は、質の高い優れた建造物等を顕彰することにより、県民の環境デザインに対する意識の高揚と都市環境並びに建築文化等の向上を目指し、併せて豊かな地域づくりを図ることを目的としています。

## 2006年度 第12回受賞作品

くまもとアートポリス推進賞



阿蘇の舎



nina Dental Clinic

撮影者：Koichi Torimura



西の久保公園



“B” - studio

撮影者：Koichi Torimura



永田 歯科

撮影者：藤原貴裕



## 募集要項

### ●表彰対象

概ね5年以内に竣工（改造、改修、修復を含む）した熊本県内の建築物、橋、公園、記念碑等の建造物及びそれらで構成された一群の施設等（くまもとアートポリス参加プロジェクト及び県の施設を除く）とします。

### ●選考基準

本賞の選考は、建造物等の企画、設計、施工、及び施設の利用について、次に示す評価のポイントをもとに総合的に評価します。

### 評価のポイント

- ① デザインが優れているもの
- ② 新しい技術的提案や工法の改善が行われているもの
- ③ 良好な施工が行われているもの
- ④ ひとや環境に優れた配慮がなされているもの
- ⑤ 施設の活用に創意工夫がみられるもの
- ⑥ 維持・管理が良好なもの
- ⑦ 地域づくりに寄与しているもの
- ⑧ 長いスパンのライフサイクルに配慮されているもの

### ●賞

賞は「くまもとアートポリス推進賞」、「くまもとアートポリス推進賞選賞」とします。  
事業主（必要に応じて管理者を含む）、設計者及び施工者に知事が表彰状を贈ります。

### ●募集期間

平成19年7月20日（金）から9月14日（金）まで  
なお、郵送の場合は募集期間内の消印があり審査間に合ったものを有効とします。

### ●応募資格

自薦、他薦を問わず、どなたでも応募できます。

### ●応募方法

応募用紙に必要事項を記入のうえ添付資料を添えて、熊本県土木部建築課アートポリス・UD班まで提出してください。添付資料は、配置図・平面図・立面図・断面図等の図面と外観及び内観の写真をA3版の用紙4枚以内（裏面使用は不可）にまとめてください。応募者は、あらかじめ事業主、設計者、施工者、管理者の了解を得てください。なお、応募用紙は、熊本県ホームページの「ただいま募集中」に掲載しています。

<http://www.pref.kumamoto.jp/traffic/artpolis/index.html>

### ●選考方法

提出された書類による書類選考で概ね10作品程度を選出して現地審査を行い、現地審査を行った作品の応募書類と現地審査により最終選考を行います。

### ●選考委員（50音順）

武田光史（日本工業大学教授、㈱武田光史建築デザイン事務所代表）  
轟 多朗（デザインドロキ、熊本県文化協会理事）  
古谷誠章（早稲田大学教授、スタジオオナスカ代表）  
星子邦子（オフィスホシコ主宰）  
松尾正一（熊本日日新聞社地方部長兼論説委員）  
村橋久昭（社団法人熊本県建築士会会長）  
元倉眞琴（東北芸術工科大学教授、㈱スタジオ建築計画代表）

### ●発表

平成19年11月（予定）、該当者及び全応募者に通知します。

### ●表彰

平成20年1月（予定）、表彰式を行います。

### ●その他

応募資料は返却しませんので、必要な場合はあらかじめ複写をお願いします。

## 提出先・問い合わせ先

熊本県土木部建築課アートポリス・UD班

〒862-8570 熊本市水前寺6-18-1

電話/096-333-2537 ファックス 096-384-9820

メール/kenchiku@pref.kumamoto.lg.jp

ホームページ / <http://www.pref.kumamoto.jp/traffic/artpolis/index.html>